



馬耳東風

いわゆる人類学の分野で人類の起源や拡散の研究が進歩し、ルーツを求める研究（篠田健一：日本人になった祖先たち、NHK出版）から、古人骨のミトコンドリアや核からDNAデータが得られるようになった。北海道礼文島船泊遺跡で発見された縄文時代後期の古人骨から、軟部組織ゲノムデータを加味して復元の女性顔像の髪の色や虹彩の色、肌色やシミまで、さらにお酒に強く身の丈の低いことまでも分かった。復元された顔かたちは、現代人に似ているようでどこか懐かしさを秘めている。また、旧石器時代の琉球の白保竿根田原洞穴遺跡から出土の古人骨からの復顔像は、いかにもアジア系の日本人的な風貌がうかがわれる。ダーウィンが予言した人類の揺籃の地アフリカから、200万年前以降世界へ拡散した人類は、分枝を逆にたどると共通祖先に行き着く。ヨーロッパにはネアンデルタール人が、東アジアには北京原人の子孫が、東南アジアにはジャワ原人の子孫がおり、その遺伝子を取り込むことになる。私たちのルーツは、大陸の広い地域に散らばっており、それがさまざまな時代にさまざまなルートを経由して日本列島に到達し、そのなかで融合して日本人が成立したことを示している。時間をさかのぼってゆくと、その経路はいくつにも枝分かれし、アジアのさまざまな地域に散らばってゆく。さらに時間をさかのぼればアジアで複雑に絡み合った道筋が、アフリカに向けて収束されて行く姿が見えてくる。

ミトコンドリアDNAとY染色体DNAは組み換えなしに子孫に伝わるので研究に用いられる。日本人の祖先集団の成立は、大陸の広い地域の人々が関与したために、DNAは東アジアの広い地域の人々に共有される。大航海時代の細分化した地域集団の境界を曖昧にした世界中のDNAが、固有のDNA組成を解消の方向へ持ってゆくことになる。

実験動物学・内分泌学の権威 今道友則博士から聞かされていたが、兄の哲学者 今道友信東大名誉教授は、若い頃フランスで大学講師をしていたが、薄給で敗戦国日本が世界経済に仲間入りする前の苦しい時代で、晩御飯を食べに一番安いプレインオムレツを注文していた。どうもこの人は給料日前になると貧乏になると思ったのか、店の女性がパンを二人分置いてくれるようになった。その分を払おうとすると「黙って」と口に手を当て受け取らない。また、パリで10年ぶりの寒い夜、「注文を取り違えたので」とオニオングラタンを出してくれた。そのおいしさと感動で涙が出た。50年後学生を連れて再訪の折、そのスープを注文した。記念にと娘さん今の女主人からは万年筆を、日本からペンダントを用意し、お互い微笑みながら交換した（今道友信：わが哲学を語る、かまくら春秋社）。異国の地で、人はやさしさに救われる。よいことをする時に心が輝く「美しい心」を持って行為する。人のDNAの故郷は、同じ所へ戻ってゆくのだと。国際化による多民社会の構図が進行する日本の姿を見て、改めてうなづく午年の年頭である。（柏）